



毛利博物館顧問
（財）防府毛利報公会理事

白杵華臣

『英雲公と防府』について

英雲公とは長州藩七代毛利重就の法名である。重就は撫育制度を創設し、藩財政上、画期的成果を挙げた藩中興の英主である。

公は参勤・帰国の都度、三田尻御茶屋（防府市）に一泊するのを楽しみとし、三田尻―中関方面の地勢を見て、防府の地こそ、その意図する産業開発ならびに経済的施策の推進をはかる格好の土地柄と考えた。安永五年（一七七六）三田尻お茶屋に大改修を加え、三田尻御殿と称した。天明二年（一七八二）、病気を理由に幕府に退隱の許可を受け、同三年五月、三田尻御殿に入ってから、寛政元年（一七八九）十月に死去するまで、ここに住居した。

公によって築立てられた防府の広大な開作地は近世、近代を通して防長殖産興業の策源地となり、防府の発展に大きく寄与した。さらに新開地の振興のために、中関市街の経営と中関港の開発に大いに力をそそぎ、藩内唯一か所、中関町にのみ常設芝居場を許可したのも、所の繁栄のためであった。また、私塾越氏塾を藩校明倫館の付属として、防府文教の振興に意を用い、かつ、防府天満宮、周防国分寺金堂の造替をはじめ、多くの社寺の創建・修理を行って、その興隆につくした。さらには公の趣味でもある和歌・茶道についてもくわしくこれを取り上げた。文化人重就の面目躍如たるものがある。

本書は昭和十一年、防府出身の枢密顧問官上山満之進翁が英雲公の遺徳を敬仰し、著者香川政一氏（一八七四―一九四二）に嘱して編述せしめ、東京の防長倶楽部から昭和十一年に刊行されたものである。香川氏は萩市出身の教育者で、各地の高等学校長、図書館長等を歴任し、その間、郷土史の研究者としても高名で、地域の歴史の発掘に力をつくし、幾多の好著をのこしている。ちなみに防府市では明治三十二年から四十二年まで中関小学校長、四十三年から大正三年まで牟礼小学校長をつとめている。

（白杵先生はこの文章を校正された直後の二月六日、脳出血のため急逝されました。永年のご指導を謝すると共に、心からご冥福をお祈り致します。）



英雲公の事績

英雲公重就は長府藩主毛利匡広の五男として、享保十年（一七二五）、江戸の長府藩邸に生まれた。宝暦元年（一七五一）、二十七歳のとき萩藩主宗広公が薨去し、その後を相続して第七代長州藩主となった。將軍家重の一字を賜わり重就と改名した。

当時、藩財政の窮乏甚だしく、公は直ちに儉政令を下し、有能な人材を登用。庶民層への実質的減税などさまざまな改革をおこなった。

識量明敏で学を好む公は、小倉鹿門・瀧鶴台等を側儒に任命した。そして藩主自ら儉素を奉じ、国富をもつて信念とし、文武を奨励し、風紀を伸張した。

崇祖の念極めて厚く、祖法祖訓を遵守するは言うまでもなく、神社仏閣の建営修理は枚挙に遑がない。文教上の業績としては藩学明倫館の創設や『萩藩閩閩録』『防長寺社由来』の編纂などがある。

産業面では、宝暦の検地をおこなうと共に、防長二州のかなめである防府を中心に広大な新田開発をおこなない、水田塩田を拓いた。また世に防長四白といわれた米、塩、紙、蠟の生産を奨励し、大いに国富を増殖した。幾多の業績中とくに著名なのは「撫育制度」の創始である。幕末の変乱に際して、よく萩藩の経済を維持して維新の元勳毛利敬親、元徳父子を国事に専念させ、ついに維新の大業を達成せしめたのも、実にこの撫育制度による不断の貯蓄があったからである。

天明元年（一七八二）、公は実名を重就と改称。その翌年家督をその子治親に譲り、五十八歳で隠居。寛政元年（一七八九）薨去。享年六十五。

本書のひと

▲明治維新の淵源をたどれば、萩藩中興の偉大なる英主、英雲公重就の事績説明は不可欠です。

▲本書は、戦国期の元就、輝元以後、長州藩主個人の人物・事績・時代をまとめた、唯一の貴重な出版物でもあります。

▲初版刊行以後六十五年、今は希書となつているため、版元である「防長倶楽部」のご了解を得て極少数数を復刻します。

▲PR開始と同時に発売につき、売切れぬうちに、ご注文ください。

目次

- 一 総説
- 二 防府の地勢
- 三 古代の防府
- 四 防府の国府時代
- 五 滄桑の変
- 六 英雲公前の毛利氏
 - ①教育報国 ②天子の臣
- 七 英雲公前の防府
- 八 毛利氏の民政
- 九 毛利氏初期の財政
 - ①六国返還問題 ②盲点と堪忍分
 - ③御納戸蔵金 ④歩戻開作 ⑤宝蔵金
 - ⑥馳走出米 ⑦旅役出米 ⑧残れる問題
- 一〇 防長海園開作の経過
- 一一 三田尻浜の起源
- 一二 襲封前の英雲公
 - 藩主としての英雲公
 - ①儉政令其一 ②三老上書 ③儉政令其二 ④儉政令其三 ⑤頼母子講
- 一三 国政の再興
 - ①再上書 ②黒印令状 ③御前仕組方
 - ④祖廟心誓 ⑤検地の好結果
- 一四 撫育制度とその成績
- 一五 民政より見たる英雲公
- 一六 追孝の英雲公
- 一七 英雲公と文教
 - 中興の主としての英雲公
 - 英雲公の退隱と藩治
 - ①公の退隱の理由 ②三田尻における寛
 - ③退隱後の藩治
- 一八 三田尻の發達と英雲公
- 一九 防府諸開作の展望
 - ①英雲公前の開作 ②英雲公時代の開作
- 二〇 中関を中心とせる施設
 - ①三関総説 ②中関港の経営 ③中関市街の發達 ④中関宰判の設置
- 二一 塩業の盛衰と英雲公
 - ①二州塩田 ②明和の厄 ③三八替持法
 - ④十州塩田組合
- 二二 産業より見たる英雲公
 - ①米 ②石炭 ③蠟 ④紙 ⑤酒 ⑥砂糖
 - ⑦白魚 ⑧豆腐 ⑨機業 ⑩藍
- 二三 英雲公と越氏塾
 - ①越氏塾の來歴 ②英雲公の擴張 ③江戸土産
- 二四 英雲公と防府の神社
 - 英雲公と防府の寺院
 - 英雲公と茶道
 - 英雲公と和歌
 - 英雲公の左右と晩年
 - ①夫人および諸公子 ②動靜來往
- 二五 英雲公時代の人物
 - ①国相 ②代官 ③萩の人物 ④防府の人物 ⑤其他
- 二六 英雲公の薨去及び補話
 - ①薨去録 ②補話、逸話 ③薨去後の毛利氏 ④薨去後の防府
- 二七 関係文書
- 付録一 関係文書
 - ①中関英雲公記念碑 ②花月樓記 ③塩田偉功之碑 ④加藤伝蔵への遺状
- 付録二 英雲公年譜

■ 体裁 A5判二七六頁 上製貼箱入

■ 定価 八千円（税込・送料380円）

■ 特価 六千円（税込・送料380円）

■ 三点セット特価 申込ハガキを
ご覧下さい。

■ 特価締切 平成十二年三月末日

■ 限定三百部（番号入）

▼極少数につき売切れの際はご容赦ください。

徳山市銀座二の一三三
電話 0834-62-0335

マツノ書店